

あきらめないで最後まで

6月23日（日）、占冠保育所親子運動会が開催されました。今年もたくさんの地域の方や関係者が運動会に会場し、子どもたちが一生懸命競技に取り組む姿を楽しみました。

負けて悔しそうにしている園児たちを先生は『あきらめないで最後までやるよ！』と激励。悔しいのは、それだけ本気だったからですね。

今年悔しい思いをした園児の皆さん、来年もあきらめずに挑戦です！



手しごとカフェで啓発用品を作製

高齢者世帯の防火を目的として、全道火災予防運動が10月15日から10月31日まで実施されます。運動期間中に訪問を予定している高齢者世帯には、羊毛フェルトで作製した『しむかっぴー』の缶バッジを配布します。

缶バッジは、消防職員及び消防団員並びに手しごと・お元気カフェの参加者が、「高齢者の方が火災の犠牲にならないように」という願いを込めて作製しました。

火災予防運動期間中の高齢者世帯防火訪問時には、消防職員又は消防団員から「火の用心」の言葉とともに缶バッジをお渡しする予定です。火の取扱には十分に気をつけましょう。



▲羊毛フェルトの缶バッジは、地域おこし協力隊有光隊員の指導を受けながら消防職員や手しごと・お元気カフェの皆様により作製されました。

人権を守るため大切な思いやり

7月9日（火）、占冠中学校で人権侵害について考える道徳授業が行われました。

授業では、現代における人権侵害の具体例として『ヘイトスピーチ』を取り上げ、生徒たちは、ヘイトスピーチとは何か、日本におけるヘイトスピーチをめぐる経緯などを学びました。

生徒たちは、実際の被害者の気持ちを想像するとともに、ヘイトスピーチをなくすために自分たちに何ができるのかについて考え、「どんなことがあっても絶対に差別はしない」「差別や偏見をもたずに、もっと外国の人と交流したい」などの意見を出していました。

最後に、占冠村人権擁護委員の山下由美子さん、藤田まきさんから、人権とは何か、人権を守るためには思いやりが大切であることなどをお話していただきました。



自治功労物故者・戦没者追悼式



7月3日（水）、自治功労物故者と戦没者の追悼式が占冠村コミュニティプラザで行われ、ご遺族や来賓など約40名が参列しました。

占冠村では、昭和60年3月に『平和の村宣言』を制定し、戦争による惨禍を繰り返させてはならないことを宣言しています。命の尊さ、平和の尊さを語り継いでいくことは、私たちの重要な責務です。

戦没者追悼式への参列者の皆様は、先の大戦により亡くなられた戦没者の皆様に対し、哀悼の意を表すとともに恒久平和に対する誓いを新たにしました。

同窓会を実施。当時の思い出を語る。



7月6日（土）、占冠中学校第17期生同期会の古希を祝う会が双民館で開催され、約20名が参加しました。

占冠中学校第17期生の皆様は、昭和39年3月に占冠中学校を卒業しました。昭和39年は、1回目の東京オリンピックの開催年でもありました。幹事の方原輝夫さんは、「昭和、平成、令和と人生で3つの元号を経験し、来年は人生で2度目の東京オリンピックが開催されます。年を重ね、少しずつ体力も老いてきましたが、次回の同期会もまた元気で皆に会いたいですね。」と話してくれました。

地域の安全安心を願って



7月9日（火）、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村の1市3町1村で『安心・安全3本の矢作戦』が行われました。

行事には、各自治体の長や商工会長、交通安全協会長、防犯協会長などが出席。参加者は、地域の安全を願った短冊を『安全の木』に飾りつけ、安全・安心な地域づくりを進めることを誓いました。

交通事故の原因はドライバーだけではなく、歩行者や自転車側がつくることもあります。お出かけの際は、それぞれの立場での交通ルールを守りましょう。